



変革が進む南米エクアドルは 地球規模の課題にどう取り組むのか

ジュビリー・エクアドルの



デルファ・マンティージャさんに聞く

日時： 3/19(金)
18:30～20:30

会場 ニコラ・バレ修道院

東京都千代田区六番町 14-4
※JR 四ッ谷駅麹町口のエスカレーターを上がり
道路を挟んだ左斜め前のビル
※裏面地図をご覧ください

参加費 800円(通訳あり)

共催 ATTAC Japan(首都圏)
カトリック聖コロンバン会
開発と権利のための行動センター
日本ラテンアメリカ協力ネットワーク(RECOM)
アジア太平洋資料センター(PARC)
地球の子ども新聞

協賛 日本カトリック正義と平和協議会

連絡先 jubilee.ecuador.tokyo@gmail.com

※院内集会もあります！

3月19日(金)11:00～12:00
衆議院第二議員会館第3会議室

南米のエクアドル共和国では2007年1月に発足したラファエル・コレア政権のもと、さまざまな改革を進めてきました。マンタ米軍基地の継続使用の拒否、水や食料へのアクセスを基本的人権と定めた新憲法の制定、先住民を苦しめ環境を破壊してきたアマゾンにおける石油開発の見直し、世界銀行・IMF を通じた「先進国」や多国籍企業による経済的支配からの離脱、従来の多国籍金融機関とは異なる地域発展と統合のための「南の銀行」への参加など、人口1300万の小さな国の人びとの挑戦は、地球の裏側の日本をはじめ世界各地で注目されています。

なかでも2008年12月にコレア大統領が発表した対外債務の一部支払い停止は、歴史的・政治的な結果として貧困を強制されてきた「途上国」と呼ばれる国の人々を勇気づけました。この債務の支払停止は、エクアドルに課せられた債務が、「貸し手」である豊かな国や多国籍金融機関の都合で貸し付けられたり、借り手の側の国のごく一部の人(たとえば独裁者)にしか恩恵をもたらさなかった融資によって作られた「不正な債務」であると判断した政府の債務監査委員会の報告書に基づいたものです。「貸した以上に引き剥がす」という債務問題が解決されない限り、エクアドルをはじめとする世界の貧困問題は解決されません。

3月21日、22日に大阪で開かれる「おおさか社会フォーラム」のスピーカーの一人として来日するデルファ・マンティージャさんは、途上国債務の帳消しに取り組む「ジュビリー・エクアドル」で活動し、対外債務に影響を受けた農民への社会的補償や、「多様な民衆女性総会」のメンバーとして、ジェンダー的立場から女性の経済的権利の承認についての取り組みをされています。

改革を求めるエクアドルの人々の熱意に押し上げられ誕生したコレア政権ですが、アマゾン地域の先住民の権利の承認や経済改革の方向性をめぐり、社会的な緊張が広がっていることも伝えられています。債務・貧困、気候変動、環境破壊など地球規模の課題について、一進一退を繰り返しながら変革を進めてきた南米エクアドルで活動する社会運動はどう考え、いかに取り組んできたのか。変革へのヒントをつかむためのこの市民交流会にぜひ参加ください。

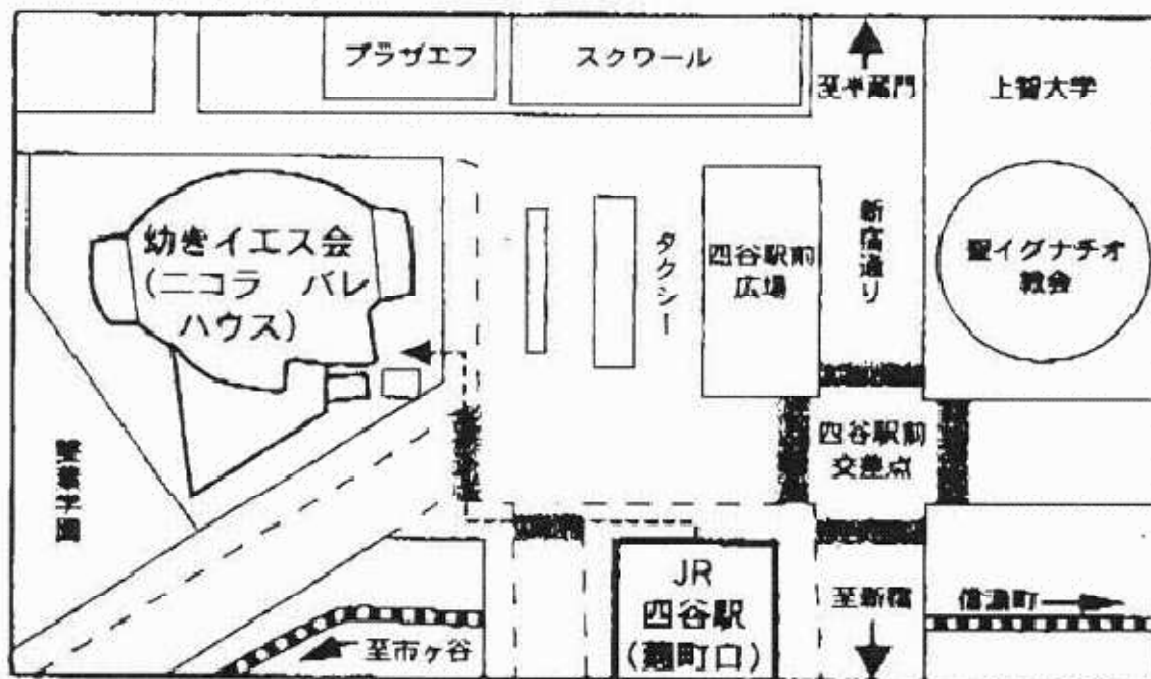
★ゲストプロフィール



デルファ・マンティージャさん

26 年間、社会運動に参加。教員や若者、女性、農民など、市民を結びつけるプロセスを支援し、社会的・文化的・環境に関する補償を求めるために権利の強化に取り組む。現在、対外債務に影響を受けた農民に対する「社会的補償」に取り組む。「異なる統合」というイニシアティブにおける「人権・民主主義・開発のためのインターアメリカン・プラットフォーム」のエクアドル代表。「多様な民衆女性総会」のメンバーとして、女性の経済的権利の承認のためにジェンダーの視点から政治的な取り組みを進めている。債務と権利のラテンアメリカネットワークのメンバー。

【会場地図】



JR・東京メロ 丸の内線／南北線 「四ツ谷駅」麹町口より徒歩 2 分

「麹町」口の出口を出て左前方向にある、9 階建てのレンガ色の楕円形の建物がニコラ・パレ修道院です。